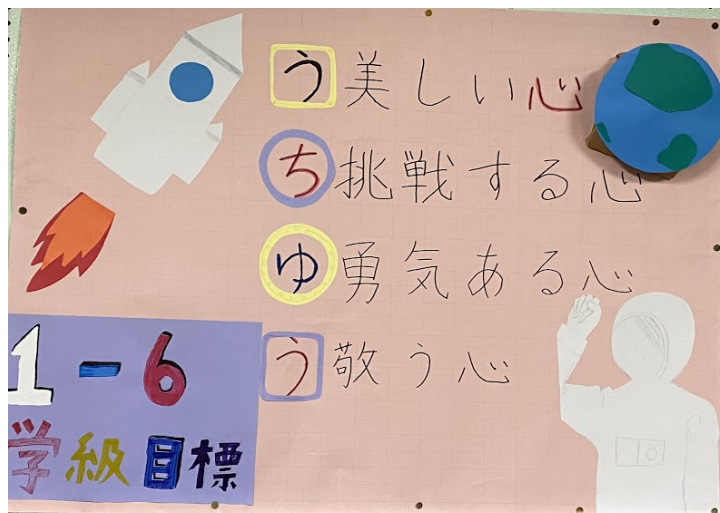


学級のシンボル作り

1年間同じ教室で過ごす生徒と教員、全員が目指す先を示す「シンボル」作り。
学校行事の時も、壁にぶつかった時も、いつでも心にシンボルを思い浮かべれば、
進むべき道が見えてきます。



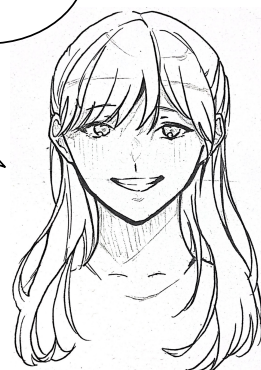
中学校1年生でのシンボル作りの例。入学式後の学活で「どんなクラスを作りたいか考えてきて！」と宿題をだし、1週間話し合って決めました。シンボルに決まった「宇宙」には、無限の可能性があり、無数の星が輝いていることから、可能性を広げ、一人一人が輝ける学級にしたいという生徒の思いが込められています。



シンボルの「うちゅう」を頭文字に、学級目標も決定！

1年間の学級経営に一貫した方針を持つのは大切ですが、それを生徒と共有すること、生徒が主体となって学級を先に進めることが重要だと考え、生徒と担任がいつでも心に留めておくべき「目指す学級像」をシンボルとして作ることにしました。

たくさんの意味を持ちながらも覚えやすい言葉にし、教室の顔になるような掲示物(生徒ら作)にすることで、思い入れのある言葉になります。それだけでなく、生徒たちの日々の会話の中からも、常にシンボルを意識しているのだなと感じる場面があり、教室が一体となって前に進んでいることがわかります。



仲間の絆木（気付き）

受験で面接を控える生徒も多く、自分の長所を堂々と話す機会も多くある中で、仲間から良さを認めてもらい自信をつけてもらう機会になると考えました。



最初は何を書いていいのかわからずくすぶっていました。

気づいてもらえるうれしさを感じるとみんな一氣に書いてくれました。

直接的に相手を褒めたり、称賛する活動はできることが理想ですが、年齢のせいか積極的に行えず盛り上がりにくいと感じていました。そこで、紙に書いて掲示物に貼ることにしました。最初は書くことにも抵抗があるように見えたが、日に日に花びらも増えていき、いいところを積極的に探すようになってきました。生徒同士で自尊感情を高めあう活動となりました。生徒の中には、「クラス全員に書く」と意気込み、普段あまり関わらない生徒同士で会話する姿が見えました。花びらが増えていくにつれて、生徒が達成感を感じている姿が見られるようになりました。



14 思い出のアルバム

思い出やその時の感情を仲間と共に共有したり、振り返ってみたりできる教室内展示物です。



写真をアルバムに入れていき、1年間が流れて見てわかるようにする。

自分の頑張りはその場で感じ取れることもできるが、他者の頑張りなどはその場ですべて感じ取れるわけではありません。また、その頑張りを他者から評価されるには、その場にいたものにしかできません。そこで、写真に残しておき、後日、仲間と共有できるタイミングがあればその都度、思い出として振り返ることができると考えました。そして、活躍を評価してもらえれば、自己有用感にもつながると思いこの活動を始めました。生徒同士のみならず、保護者が来校した際に学校生活を写真で見ることできます。親子で一緒にアルバムを見る姿も見られて、よい活動であったと感じました。



先生方へのインタビュー

先生方に「自己肯定感を高めるために大切にしていること」についてインタビューをしました。教育に対する様々なお話が聞けましたので、ぜひお読みください。

私は、どの児童も学校に居場所があることを感じられるようにすることが大切だと思う。クラスの中で「あの子は～ができない」というマイナスなイメージを持たせてしまったら負けだと思うの。教師が、児童一人一人のことをしっかり理解して、苦手なことやできないことには適切な手立てを考えて、力がつけば、だれもが認め合えるようになると思う。つまり、教師は、目と声をかけることが大事なんじゃないかな。



一人一人が自分の居場所を感じられるようにしているよ。そのために、挨拶をする時には、「おはよう。今日の髪型いいね。」みたいに挨拶プラス一言を心がけている。見てくれているという安心感を持たせるためにね。あとは、全員と話せるように、「今日はこの子に話しかけよう」と決めて一日を過ごしたり、名簿に話した子を記録して、最近話していない子に進んで話しかけたりしているよ。そうすると、一人一人のことがよくわかるから、児童生徒理解につながるよ。



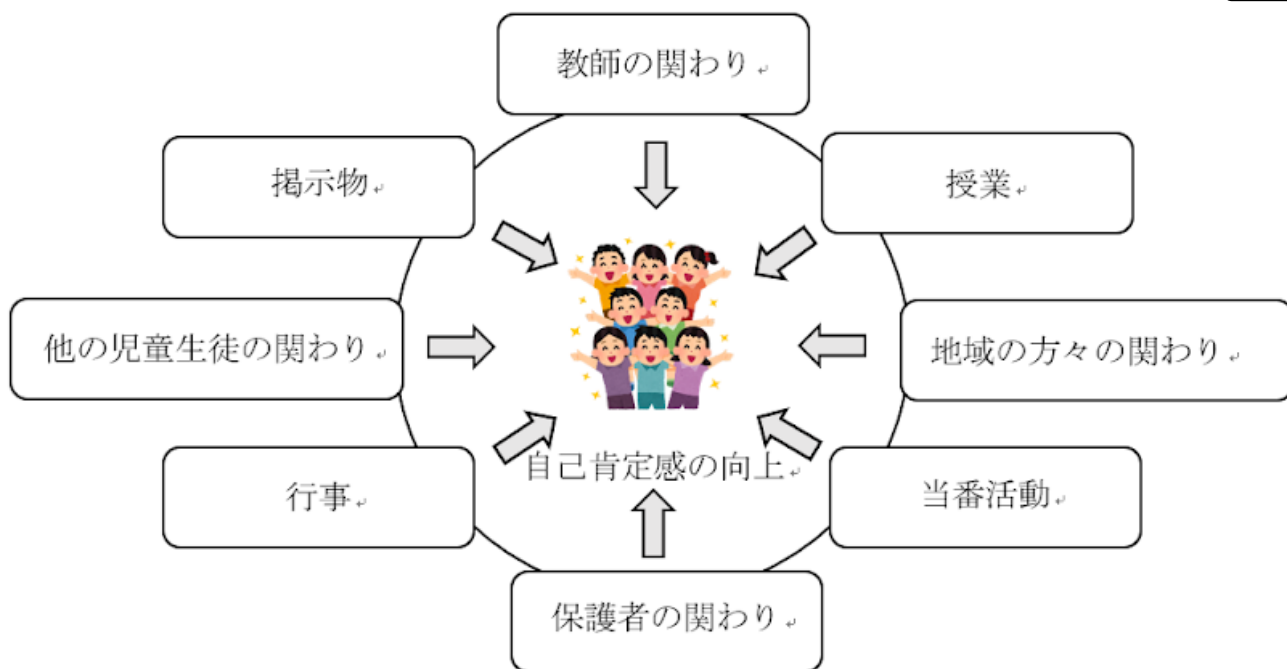
教室内を統一感のある掲示物にすることを心がけています。今年1年間のテーマを決めて教室内に統一感を持たせると、生徒が係などの掲示物を作る際に考え、議論しやすくなります。生徒が自分たちで考える雰囲気は自然と生まれ、自分の作品も統一感のあるものとなり一体感を感じられる気がするんですよね。また、学級通信で生徒自身が書いたものをそのまま載せて発行しています。自分が直接書いたものが掲載されたときの嬉しさは教師が打ち込んだものよりも大きいのではないかと思いますし、学級の中で自分の存在が強く確認できる瞬間だと思うんですよね。



生徒たちは、こちらが思っている以上に掲示物をじっくりと何度も見えています。
教室にある、ありとあらゆるものが、生徒の人生を変えるかもしれない。そんな気持ちで、
願いを込めて作成しています。



中学校



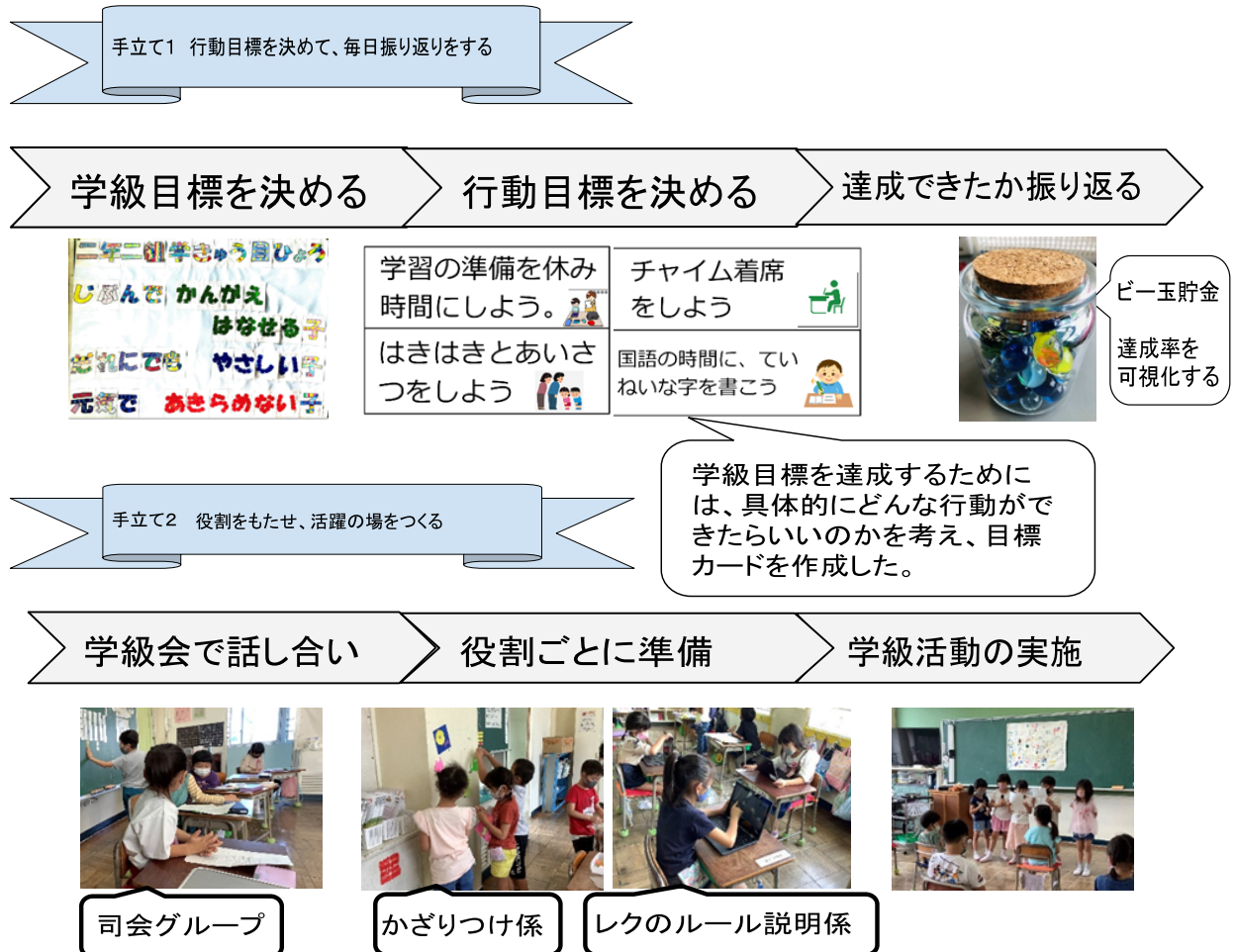
研究の成果 ～小学校の例～

研究の概要

児童の実態

本学級は、自分の良さを自覚している児童が多く、自尊感情は高い傾向にある。その一方で、自分が決めた事を最後までやり遂げた経験が少ないことや、自分で考えて行動ができていないと感じている児童が多いことがアンケートの結果からわかった。つまり、「自分は何でもできる」感覚の自己効力感や「自分のことは自分で決められる」感覚の自己決定感が弱いと考えられる。そこで、これらの感覚を高められるための手立てを考え、実践することにした。

手立て



結果



「自分が決めたことを最後までやって嬉しかったことがありますか。」の質問項目において、9月と比べて、「あてはまらない」と回答した児童が減り、「あてはまる」と回答した児童が増えた。

考察

自分たちで決めた目標を達成できた達成感や役割を果たすことができた満足感が自己効力感や自己決定感を高めることにつながると考えられる。また、担任が児童の行動を価値づける言葉かけをすることが、自己肯定感を高める上で大事だと感じた。